

USBデバイスサーバ
採用事例

同志社大学 様

学生が利用するラウンジのスキヤナを低コストで快適に ～低価格のUSBスキヤナでネットワーク化を実現～

大学生のPCスキルを自身で向上させるために解放しているマルチメディアラウンジ。発表資料や論文に挿入するため、紙媒体である文献や写真をデータとして取り込むためスキヤナの設置は必須だが、全PC台数分設置するとコストが高くなり、設置スペースの問題も生まれる。この問題を安価なUSBスキヤナでネットワーク対応させることで、コスト削減を実現し、PCの環境をすべて統一することにも成功しました。

採用先プロフィール

導入先:同志社大学 様
採用製品:USBデバイスサーバ SX-3000GB,
ワイヤレスブリッジ SX-2500CAG
採用目的:スキヤナの共有
採用台数:8台
採用時期:2010年9月

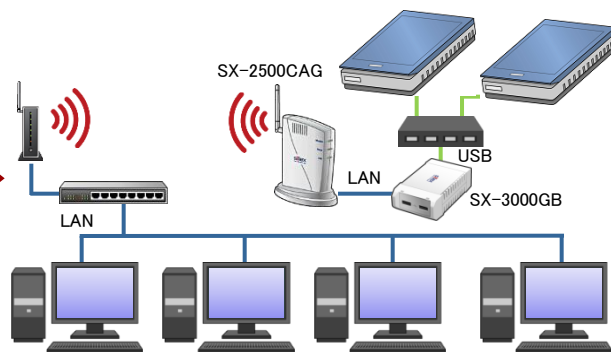


USBデバイスサーバ 採用前の課題



- PC端末1台ずつにスキヤナを接続するとなると、コストが高くなる。
- スキヤナが使えるPC、使えないPCと別れてしまうと管理がややこしくなる点や、ある学生が利用中はPCごと占有されてしまうので、ほかの人が使えないという問題があった。
- 設置スペースの問題もあり、スキヤナを置くことで作業スペースが狭くなる。

USBデバイスサーバ 採用後のメリット



- ネットワーク対応で、スキヤナの導入台数を削減することができ、コスト的なメリットが大きかった。
- 共有できることを活かしてワゴンに乗せて移動させる使い方も重宝している。
- すべてのPC環境下で利用できるようになった為、どのPCでも学生は選択して使えるようになった。
- すべてのPCを同じ設定で扱えるようになった為、管理する側としても大変楽になった。

お客様の声

同志社大学
教育支援機構 教務部 情報支援課 情報支援係長
ITサポートオフィス 野田 宣彦 様

マルチメディアラウンジでは、学生自らコンテンツの作成や編集ソフトの使い方を学んでもらうために開放している。作業の中には論文作成のための資料取り込みやOCR装置による文字取り込み、写真取り込みなど紙媒体からの読み込みが発生している。そのためスキヤナの設置は必須であるが、全PCIに設置すると非常にコストがかかり悩んでいた。USBデバイスサーバを利用することで、少数のスキヤナを全てのPCで共有でき、設置コストが抑えられることから、採用に至った。PC周辺もスッキリし、作業スペースが広がったことで、利用者を配慮した設計にも満足している。

製品紹介

ギガビット対応
USBデバイスサーバ
SX-3000GB

10BASE-T、100BASE-TX、1000BASE-T
USB 2.0 Hi-Speed(Aタイプ x 2Port)
アイソクロナス転送に対応



Wireless Bridge
SX-2500CAG

10BASE-T、100BASE-TX
IEEE 802.11a/b/g規格

